第14回ワーキングレベル会合が開催されました

インパクト志向金融宣言の第14回ワーキングレベル会合が2025年4月24日（木）9：30～11：30に、対面・オンライン形式にて開催されました。当日は署名機関、国内の賛同機関から対面で48名、オンラインで40名が参加しました。

第14回ワーキングレベル会合は、以下のアジェンダで報告や議論を行いました。

1. 定足数確認・議長選出
2. 新規署名機関の紹介
3. 第1号決議事項　第15条2項に基づく運営規程の改正
4. 第2号決議事項　第15条8項に基づく予算の修正決議
5. 第1号報告事項　分科会活動報告
6. 第2号報告事項　TOCの議論
7. 第3号報告事項　その他の報告事項
8. 今後の予定、事務局連絡

- 定足数・議長選出

決議にあたり、出席署名機関数が総出席署名機関数の過半数を超えているため、定足数を満たしていることを確認しました。

議長は、推薦により三浦氏（SIIFIC）、佐藤氏（住友生命）が選出されました。

● 新規署名機関の紹介

前回のワーキングレベル会合以降、新たに署名した機関にご挨拶頂きました。4月1日時点の署名機関数は70社となりました（署名金融機関64社、署名協力機関6社）。

【新規署名機関】
（3月1日付）SMBC日興証券株式会社

（4月1日付）インパクトサークル株式会社、株式会社コンコルディア・フィナンシャルグループ、
脱炭素成長型経済構造移行推進機構

【署名協力機関】
（5月1日付）PwC Japan

● 決議事項

事務局より、第1号決議事項（第15条2項に基づく運営規程の改正）と第2号決議事項（第15条8項に基づく予算の修正）について説明を行いました。

上記について決議を行い、両議案とも反対意見なしで可決されました。

● 報告事項：分科会活動報告

[分科会活動報告]

各分科会の座長・副座長より活動状況を報告して頂きました。

【地域金融分科会】
- ✔ 主な活動として、「地域PIF実践ガイダンス」の作成を進めている。本ガイダンスは、地域金融機関がポジティブ・インパクト・ファイナンス（PIF）に取り組む際の実務を支援することを目
- ✔ 的としており、実例を分析した上でKPIの設定例等を示している。
- ✔ 現在、作成中のガイダンスについて、IDFI内でパブリックコメントを実施中であり、5月末に公表予定。

【ソーシャル指標分科会】
- ✔ 分科会活動は基本的に事例紹介や事例研究をベースに進めている。
- ✔ 12月を目標に事例集を作成する計画であり、事例まとめ作業を進めていきつつ、4月以降も事例紹介を引き続き実施していく予定である。

【VC分科会】
- ✔ 今期の活動方針として、不定期開催としてメリハリをつけた運営を行っていく予定。
- ✔ インパクト投資のプラクティスの高度化と裾野拡大に向け、共通認識を得られた内容を積み上げプレイブックに落とし込むといった活動を実施している。
- ✔ また、LPとスタートアップとの対話を通じ、VCでのグッドプラクティスが全てのプレイヤーにとってもグッドプラクティスであるかの視点でイベントを開催していく予定。2月には内部で経済性に関するディスカッションを行い、来月にはインパクトスタートアップ協会との対話セッションを行う予定。

【AO/AM分科会】
- ✔ 主な活動内容は事例の共有である。

- ✔ 昨年度は、メンバー間の参考になる内部向けの事例共有と、インパクト投資を外部に広めるための対外的な事例共有を実施した。今年度の活動計画アンケートを通じて固める予定であるが、インパクト投資の広義化の議論や、手法一覧化などを含む成果物の作成等について、議論していく予定。

【融資・債券分科会】

- ✔ 2023年12月に設立された新しい分科会で、活動は月に1回の分科会に加え、10名のコアチームでのディスカッションを実施している。。
- ✔ これまでは事例の共有が中心だったが、企業とのエンゲージメントの課題が見えてきたため、エンゲージメントのあり方を整理し、共有・見える化することに取り組んでいる。具体的には、ガイドラインの作成・アップデートを進めており、今年夏頃の公表を目指している。

【ICEA】

- ✔ 上場企業10社と金融機関12社が参加し、2ヶ月に1度議論を行っている。
- ✔ インパクトを起点とした企業価値向上に取り組む上場企業の努力が、資本市場関係者の間で十分に評価されていないという問題意識から活動しており、金融側と上場企業の取り組みを重ね合わせ、企業価値向上につながるインパクト創出の経路、種類、開示方法について議論している。
- ✔ これまでに4回の議論を行っており、次回（6月上旬）に今後の進め方について議論する予定。

● 報告事項：TOC策定について

事務局より、中期計画の策定に向けた全体スケジュールとTOCの策定に関するこれまでの議論のプロセスと成果、また、これまでの議論を反映したTOC案の内容等について説明を行いました。

TOC案について、参加者より以下のコメントが挙がりました。

- ✔ 全員がインパクト投資家になる必要はなく、各金融機関や投資家の立ち位置に応じた役割分担が重要。インパクトファイナンスならではの役割と言えるのが、インパクトと企業価値の可視化やIMMとエンゲージメントなので、事業者に対してどのフェーズでインパクト投資家、通常の投資家がそれぞれ入ればよいのか、といった議論もできると良い。

- ✔ 近年インパクト投資の規模は拡大しているが、未上場株の比率は未だ低く、リスク性の資金をファイナンスするインパクト投資が伸びていないことが課題。アプローチとして「エマージングマネージャーの支援」と「メインストリームVCのインパクト化」があり、後者はVC分科会を中心にやってきているが、インパクト志向をもったエマージングマネージャーを支えていくことも重要。TOCのようにメインストリームを変えていくことは重要だが、エマージングプレイヤーとメインストリームとの連携の在り方も議論できると良い。

- ✔ メインストリームの投資家が投資できないところにVCのようなリスクを取る投資家や地域の金融機関が投資するという役割があるというのを、示せると良い。

- ✔ メインストリームが自ずとインパクト投資に入ってくるというのが良いので、そのための手法を考えていくことが重要。リターンに対する考え方やリスク許容度もそれぞれ異なるので、全体がインパクトに向かうような流れを作れると良い。事業の発展の度合に応じて投資から融資にバトンタッチしていくスキーム等、現実的な方法を議論していきたい。
- ✔ 個人・最終受益者の共感醸成を高めていくとインパクトの推進がしやすく、裾野拡大にもつながり、社会環境課題を解決しようという流れになっていく。共感を醸成していくことがインベストメントチェーン全体につながっていくと考える。

- ✔ インパクトと企業価値との関係性を明確化するという点は重要。TOCの「インパクトと企業価値の関係性の明確化」は現実的に考えると短期では実現が難しいこともあり、「考え方を整理する」「継続的に明確化を図っていく」などの表現としても良いのではないか。

✔ 裾野を広げるにはインパクト投資の魅力を広げていくことが重要。事例を通して具体的なインパクト実現の結果を感じ取ることによって、新たにやってみたいというプレイヤーが出てくる。実際に好事例も出てきており、事例の情報交換や議論を行う場所になると良い。

今後、TOCを実現するための具体的な活動や成果(アウトプット)について議論を行い、中期計画の策定を進めていく予定です。

- 報告事項：その他報告事項

事務局より、出版企画の進捗および運営規則の制定について、報告を行いました。

- 今後の**WL**会合予定

2025年 7月24日（木）
2025年 10月22日（水）
2026年 1月23日（金）

以上